

社会の変化に主体的に関わる教育の研究 豊かな感性と実践力を育てる環境教育

I はじめに

近年、加速度的に国際化、情報化が進む中で、社会構造の変化や価値観の多様化により、子どもを取り巻く環境も大きく変化している。学校教育には、学習指導要領に基づく教育課程の完全実施はもちろん、地域社会や保護者の信頼に応え、創意と工夫の下に、心身ともにたくましく創造性に富み、確かな学力と個性を生かす教育の充実が求められている。

一方、教育現場において不登校・いじめ・非行・問題行動等の諸問題は依然として深刻であり、正義感や倫理観・責任感・協調性・他者への思いやりの心など「豊かな人間性と社会性の育成」を図る教育の充実が大切な課題となっている。こうした多くの課題を解決するためにも、学校は常に家庭や地域社会と連携し、それぞれの持つ教育力を積極的に取り入れていく必要がある。

このような現代において学校、家庭、地域社会が相互に意志を疎通・保管し合って子どもの人間形成に大きな教育力を発揮するものとして環境教育が重要視されている。

小学校における環境教育は、身近な環境に対する感受性や見方・考え方を養うために具体的・体験的な活動が必要である。また、身近な問題が地球規模の環境問題にまで繋がっていることを理解し、自分たちを取り巻いている環境への適切な関わり方を主体的に判断し、実践できるよう発達段階に応じた学習内容を用意する必要がある。

II 研究の概要

(1) 研究計画……2年次計画で推進

第1年次 (平成18年度) 理論研究、各校の実践事例研究

第2年次 (平成19年度) 実践事例研究と研究のまとめ

(2) 研究内容

学校教育における環境教育 (狙いと視点)

- 関心： 全環境とそれに関わる問題に対する関心と感受性を身につける。
- 知識： 全環境とそれに関わる問題及び人間の環境に対する厳しい責任や使命について基本的な理解を身につける。
- 態度： 社会的価値や環境に対する強い感受性、環境の保護と改善に積極的に参加する意欲などを身につける。
- 技能： 環境問題を解決するための技能を身につける。
- 評価能力： 環境状況の測定や教育のプログラム、生態学的、政治的経済的、社会的、美的、その他の教育的見地に立って評価できる。
- 参加： 環境問題を解決するための行動を確実にするために、環境問題に関する責任とその事態の緊急性についての知識を深める。

(3) 校長として環境教育への関わり

①教育課程の編成

学校教育目標，学校経営の基本方針，学校経営の努力点，具体策等に環境教育の視点を明確に位置づける。

②具体的な実践課題

- ・学習指導・・・総合的な学習の時間の取り組み，深くしかも持続性があり，児童と教師が共に探求したい課題の設定。
体験を豊富に盛り込む（地域教材・地域人材の活用）
- ・心の教育・・・児童が体験の中で感じたことを重視していく。
児童期の体験は大人になってからの判断の規範となる。
- ・地域に開く・・・地域の教材化を進め，地域人材を広く活用する。
- ・環境の保護・・・身近な自然や生活の中から実践課題を決め，体験し，考え，地球的規模にまで視点を広げていく。

③環境教育実践の条件整備

ア 予算条件	補助金・諸活動費
イ 物的条件	土地，種，苗，農具，工具等の整備
ウ 人的条件	非常勤講師の確保，保護者等の協力
エ 安全確保	交通安全，安全な輸送，保険加入 等
オ 資料蓄積	実践してきたものを資料として保管
カ 資質向上	知識及び技能の獲得
キ 環境整備	豊かな感性を育てるための学校環境の整備

Ⅲ まとめと課題

(1) 成果

- ・初年度であるので，環境教育に関わる各種の法律等を再確認したり各校の環境教育の実践を情報交換し合った。そこで今年度の研究をもとに，自校の環境教育の評価の実施及び校内指導体制の整備・教師の意識・指導力の向上等にリーダーシップを発揮していかなければならないことを再確認できた。

(3) 課題

- ・環境教育は，自分を取り巻く自然環境・生活環境に関心を持ち一人一人が身近な問題として捉えるとともに，人との関わりにおいて理解を深め，環境問題に取り組んでいく子どもを育成しなければならない。そのためには地域と連携し，長期にわたり継続可能な体制づくりが必要である。
- ・環境教育の対象は身近な身の回りの問題から地球規模の問題まで広範囲であり，その学習領域は自然科学・社会科学の分野から一人一人の感性や心の問題にまで及ぶ。このことは，環境教育で扱う内容は単に環境問題に関わるものだけでなく，子どもたち一人一人の感性や心の問題，さらには生き方にまで関わっている。このようなことを踏まえた上で教育課程の編成を進めていく必要がある。

(文責 丸田修身)